

こんなことをしています！こんなところでがんばっています！

地域おこし協力隊通信



地域おこし協力隊を卒業しました！

令和4年12月末で協力隊の任期を終えた江副佑輔さんに3年間の総括と想いを聞きました。

町が発行する広報紙『広報ながしま』の紙面デザインをミッションに協力隊として採用され、駆け抜けるような3年間でした。

広報紙制作では、制作に関わる全ての活動を含めると、3年間で約3千時間の情熱を注ぎました。成果としては、広報紙のデザインだけに留まらず、中身の企画や取材、SNSなどでも、町の魅力を町内外に伝えるため、あらゆる広報に尽力しました。

任期中はコロナ禍のため、

活動の自粛や町外への視察では行動制限がありました。が、コロナ禍だからこそできることを、協力隊にしかできないことを模索し、広報紙以外にも町内外多くの人やコトに関わらせていただきました。イベントや企画立案など、人と人をつなぐ取り組みでは、機会と挑戦が自身を大きく成長させてくれました。

モノのデザインに加えて、体現するコトのデザイン活動を合わせると、大小300以上の成果を挙げました。コロナ関係での課題解決では、役場の各担当課と連携し、自身のスキルを生かしてもらえたことがうれしかったです。

新たなスタートを切る江副さん



先人の協力隊OBの話では「地域おこし協力隊制度」は奇跡の制度とも呼ばれています。総務省では、令和8年度までに全国の隊員数を1万人に増やすという目標が掲げられ、協力隊の存在は地方創生の要ともいえる期待があります。協力隊の仕事があったからこそ、この町に出会えました。役に立てることの喜びを大いに学ばせてもらいました。

役場駐車場の石垣に刻まれた「長島町民の役に立つ人のいるところ」という言葉を見るたびに背筋が伸び、日々の協力隊活動を鼓舞してくれる指針でもあり、好きな言葉でした。協力隊の任期は終わりましたが、これからも長島町のため、この地を拠点にしながら、新しい生業で地域おこしは続けていきたいです。皆さま、本当にありがとうございました。